

和の養生学 針灸養生学編

第10章 経絡養生法

第1節 十二経脈と根結治療・経絡治療・経筋治療

- 1、手の太陰肺経 2、手の陽明大腸経 3、足の陽明胃経 4、足の太陰脾経 5、手の少陰心経
- 6、手の太陽小腸経 7、足の太陽膀胱経 8、足の少陰腎経 9、手の厥陰心包経 10、手の少陽三焦経
- 11、足の少陽胆経 12、足の厥陰肝経 13、督脈 14、任脈

第2節 その他の重要穴

- 1、耳 2、四神聡 3、痞根 4、積聚痞塊 5、腰眼 6、腰腿点 7、落枕 8、八邪 9、十宣
- 10、四縫

第3節 根結治療を使ってみよう

第4節 保健灸法の臨床応用 1、常用、保健、強壯穴の紹介 2、強壯灸法の穴の組み合わせ 3、施灸方法

第5節 針灸任督通暢法 1、温陽通督法 2、通督驅邪法 3、通解開竅法 4、温任益心法

- 5、充任滋腎法 6、調任理気法 7、交通任督法 8、滋養任督法

第6節 奇経八脈

- 1、奇経八脈の概説 2、奇経八脈の要約 3、奇経八脈の流注と症候

第7節 治療方法の検討「実際に臨床で使って効果を感じた治療法」

- 1、めまい 2、耳鳴り 3、震え 4、顔面神経麻痺 5、頸椎病 6、坐骨神経痛 7、腰痛
- 8、前立腺の病気 9、パーキンソン病 10、不妊症や婦人病 11、脳・神経の病気 12、健忘、痴呆

第11章 重要診断（治療する前に）

第1節 基礎の舌診断法 1、望診 2、舌質の色 3、舌体の形態 4、点刺と瘀斑 5、舌の厚さと舌質

- 6、舌下脈絡 7、舌診における症状（重症）判断

第2節 切脈（陸瘦燕針灸論著医案選） 1、切脈の起源を求め 2、衝陽・太溪脈 3、頷厭・太衝脈

- 4、左右偏勝

第3節 穴位診断 1、痞根穴 2、積聚痞塊

第10章 経絡養生法	1
第1節 十二経脈と根結治療・経絡治療・経筋治療	1
1、手の太陰肺経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	3
少商・中府、尺沢、孔最、列欠、太淵	
2、手の陽明大腸経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	6
商陽・迎香、肩髃、曲池、偏歴、合谷	
3、足の陽明胃経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	9
厲兌・迎香・頭維、四白、天枢、足三里、上巨虚、豊隆、衝陽、内庭	
4、足の太陰脾経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	12
隠白・中脘・大包、血海、陰陵泉、三陰交、公孫	
5、手の少陰心経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	15
少衝・巨闕、通里、神門	
6、手の太陽小腸経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	17
少沢・攢竹、後溪、天宗、腕骨、聴宮	
7、足の太陽膀胱経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	19
至陰・攢竹、天柱、大杼、次膠、秩辺、委中、承山、跗陽、崑崙	
8、足の少陰腎経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	23
湧泉（内至陰）・廉泉（兪府）、照海、太溪、復溜	
9、手の厥陰心包経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	25
中衝・膻中、曲沢、内関、大陵	
10、手の少陽三焦経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	27
関衝・耳門・聴会、中渚、外関、翳風	
11、足の少陽胆経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	30
足竅陰・聴宮、聴会、完骨、風池、肩井、環跳、陽陵泉、懸鍾	
12、足の厥陰肝経 本経の循行路線・病候、経筋の分布部位・病候	33
大敦・膻中、太衝	
13、督脈 督脈の流注・機能・病候	34
水溝、百会、脳戸、風府、大椎、至陽、命門、腰陽関	
14、任脈 任脈の流注・機能・病候	37
膻中、中脘、水分、神闕、気海、関元、丹田	
第2節 その他の重要穴	40
1、耳 2、四神聡 3、痞根 4、積聚痞塊 5、腰眼 6、腰腿点 7、落枕 8、八邪	
9、十宣 10、四縫	
第3節 根結治療を使ってみよう	43
第4節 保健灸法の臨床応用	45
1、常用、保健、強壯穴	45
(1) 膏肓 (2) 神闕 (3) 気海 (4) 関元 (5) 大椎 (6) 足三里 (7) その他	
2、強壯灸法の穴の組み合わせ	47
3、施灸方法	48
第5節 針灸任督通暢法	49
1、温陽通督法 2、通督驅邪法 3、通解開竅法 4、温任益心法 5、充任滋腎法	
6、調理理気法 7、交通任督法 8、滋養任督法	

第6節 奇経八脈	5 3
1、奇経八脈の概説	5 3
2、奇経八脈の要約	5 4
3、奇経八脈の流注と症候	5 5
(1) 陽維脈 (2) 陰維脈 (3) 陽蹻脈 (4) 陰蹻脈 (5) 督脈	
(6) 任脈 (7) 衝脈 (8) 帶脈	
第7節 治療方法の検討「実際に臨床で使って効果を感じた治療法」	6 7
1、めまい	6 7
2、耳鳴り	6 9
3、震え	7 0
4、顔面神経麻痺	7 1
5、頸椎病	7 3
6、坐骨神経痛	7 4
7、腰痛	7 6
8、前立腺の病気	7 8
9、パーキンソン病	8 1
10、不妊症や婦人病のツボ	8 2
11、脳・神経の病気	8 6
12、健忘、痴呆	9 0
第11章 重要診断 (治療する前に)	9 2
第1節 基礎の舌診断法	9 2
1、望診	9 2
2、舌質の色	9 2
3、舌体の形態	9 4
4、点刺と瘀斑	9 5
5、舌の厚さと舌質	9 6
6、舌下脈絡	9 8
7、舌診における症状 (重症) 判断	10 1
(1) 正気の盛衰を判断する (2) 病位の深淺を弁別する (3) 病情の進退を推測する	
(4) 舌色 (5) 舌形 (6) 舌態の望神 (7) 舌苔 (8) 舌光	
(9) 5 2例の鏡面舌患者の臨床分析	
第2節 切脈 (陸瘦燕針灸論著医案選)	10 6
1、切脈の起源を求め 2、衝陽・太溪脈 3、頷厭・太衝脈 4、左右偏勝	
第3節 穴位診断	10 7
1、痞根穴 2、積聚痞塊	

はじめに

東洋医学の道に進み四十五年の歳月が経過し、その間たくさんの「ご縁」を頂きました。
岐阜薬科大学卒業後、大阪にて夜間の針灸専門学校に通学しつつ麻酔医の三枝博医師より針灸を学び、五年の歳月がたち、岐阜に戻り現在の場所で開業しました。
開業後、平成元年(1989年)より北京中医药大学を卒業され、大阪大学で博士号の研究をされていた邵輝中医師との出会いが私の針灸術の大きな転機となりました。
五年ほど、大阪の先生の下宿に通い、その後は、岐阜に来て頂き東洋医学の基礎と理論を学びました。
実践する中で、「針灸とは」との問いに
「人の身体の気をなめらかに流し、上下左右のバランスを整える術である。」
との回答にたどり着きました。
本書では、中国古書と中国の現代針灸書を融合させ、針灸術の基礎である十二経絡、奇経八脈の流れ(流注)をより詳しく解説し、ツボ(経穴)の臨床的な意義を解説しました。
また、東洋医学の基礎診断法の舌診や脈診と督脈・任脈の活法の活用の論文など長年研究した内容を添付しました。
今一度、先人の遺産に目を向けていただき、毎日を健康に過ごす参考書になればと考え出版することになりました。

多くの皆様方のご支援により、本書を書くことが出来るようになったことに心より感謝申し上げます。
重ねて、御礼と今後ともご指導をお願い申し上げます。

二〇一九年五月 令和元年

野崎 康弘